

## イエズス会日本関係史料の編纂について

——イエズス会歴史研究所と東京大学史料編纂所——

浅見雅一

### 一 はじめに

現在、キリシタン史料は南欧各地の図書館や文書館に散在しているが、重要な史料は概ね各修道会の本部にある文書館に所蔵されている。キリシタン時代の日本において布教活動を行なったのは、イエズス会、フランシスコ会、ドミニコ会、アウグスティノ会の四修道会である。この内、日本布教の先鞭を着けただけでなく、最も長期間に亘って活動を行ない、布教の中心的役割を果たしたのはイエズス会であるから、主要な史料はイエズス会が所蔵していることになる。実際に確認されるだけでも、イエズス会の史料は質量共にスペイン系托鉢修道会のものに凌いでいると言えよう。一九七〇年代にローマ・イエズス会文書館<sup>①</sup>が一般の研究者に對して、その膨大な所蔵史料の公開を開始したことは、キリシタン史の研究に飛躍的發展を齎す契機となった。

キリシタン史、特にイエズス会を中心とする歴史の研究では、研究者個人による研究や史料翻訳に重要なものがあることは勿論であるが、研究機関による史料編纂も行なわれてきている。一般に近代以降の研究機関による史料編纂には、二つの主な流れを見ることができると言えよう。

それらは、ドイツの国史編纂事業とカトリック教会の編纂事業である。前者の流れを汲むものに東京大学史料編纂所における日本史に関する史料としての編纂があり、後者の流れを汲むものにローマのイエズス会歴史研究所（英語名 Jesuit Historical Institute<sup>②</sup>）におけるイエズス会の布教史料としての編纂がある。現在、両研究所はイエズス会日本関係史料の編纂と出版を行なっている。相互に出版の意図が異なるとはいえ、いずれも学術出版物であることは共通している。

東京大学史料編纂所の編纂事業はその起点から国家事業としての性格を持つているが、イエズス会歴史研究所の編纂事業は世界的規模で布教活動を展開しているカトリック修道会であるイエズス会の歴史を明らかにすることを目的としている。学術的価値を有する出版事業を行なっている点で共通基盤があるとはいえ、イエズス会歴史研究所と東京大学史料編纂所には、私的機関と公的機関という相違がある。以下、両研究所におけるイエズス会日本関係史料の編纂の概略を紹介する。特に両研究所の史料編纂に対する認識と、編纂方法の違いについて述べることにしたい。

## 二 イエズス会歴史研究所の活動

キリシタン史料は、海外史料と国内史料に大別される。この内、海外史料はカトリック教会史料と世俗の史料に分類できる。世界的に布教活動を展開したイエズス会の史料は、カトリック教会史料の中でも修道会史料に相当することになる。勿論、大航海時代におけるイエズス会の活動は、イベリア両国の海外進出事業を背景としているので、修道会史料であっても世俗の史料と無関係ではあり得ない。イベリア両国の植民地政庁史料には、イエズス会士を始めとする修道士が執筆した史料が散見されるが、ここでは教会史料と世俗の史料を一旦切り離して考えることにする。

ローマにあるイエズス会本部には、ローマ・イエズス会文書館が併設されており、同会創設以来の膨大な分量になる重要史料が所蔵されている。同文書館が一般の研究者に公開されて間もなく、所蔵文書の概要が当時の文書館長エドモン・ラマール神父によって紹介されている。<sup>(3)</sup>それによれば、所蔵文書は三種類に大別されるということである。①一五四〇年の創設から一七七三年の解散までの史料群、②一八一四年の再結成以降の史料群、③「イエズス会史料」Fondo Gesuitico の史料群となる。一八七三年、ローマにあったイエズス会が所蔵する史料の一部がイタリア政府によって没収された。十九世紀の文書を中心とする同史料群は、一九二四年にイエズス会に返却されると、ローマのジェズ教会に所蔵されることとなった。一九三一年、イエズス会本部内にローマ・イエズス会文書館が設立された。一九五一年、同史料群は同文書館に移管され、今日の「イエズス会史料」Fondo Gesuitico となっている。一九九三年、ローマ・イエズス会文書館は、本部建物の改築工事を終えて現在の設備と体制になった。他に、本部内には図書館が設置されており、約七五、

〇〇冊の書籍が所蔵されている。

高瀬弘一郎氏は、イエズス会日本関係文書をイエズス会員の書翰、報告書、年報、会議記録、規則、カタログ、会計帳簿に分類している。<sup>(4)</sup>この分類は、いずれの布教地の史料についても可能であろう。勿論、分類項目によっては相互の境界が曖昧なものもあり、必ずしも明確に分類できるわけではない。また、会計帳簿のように実際は殆ど現存していないものもある。イエズス会史料の基本となるのは会員の書翰である。書翰には全くの個人的なものもあるが、書翰と報告書の区分は必ずしも明確ではない。年報は各地から送られる「摘要」と呼ばれる個別報告書を基にして作成されるのであるが、編集が間に合わない場合には「摘要」が年報の付録として扱われることがある。

イエズス会では、各布教地からローマにあるイエズス会本部が送付されるのであるが、その中継地点で筆写、保管され、その土地にいるイエズス会士の教化に利用すべきことが「イエズス会憲」で定められている。<sup>(5)</sup>日本から送付する場合、長崎→マカオ→ゴア→リスボン→ローマと送付されることになる。海難による喪失を防止するために、通常は三便、最多の場合では五便が作成されるが、マカオやゴア等の中継地点でも複数の写本が作成されており、今日でも同一の書翰や報告書に対して数種類の写本を見ることができ、その中でも特に有名なものとして、十八世紀にマカオで作成され、現在はリスボンにあるアジュダ図書館が所蔵する写本集「アジアのイエズス会士」を挙げることができ<sup>(6)</sup>る。これは、ポルトガル王立歴史学士院の指示によって、マカオのコレジオに保管されていた文書をイエズス会のジョゼ・モンターニャとジョアン・アルヴァレス等が筆耕を指揮して組織的に筆写したものが基礎となっている。これらの写本はインドを経由してポルトガル歴史学士院ではなくリスボンのイエズス会日本管区代理部に送られており、それが現

在の「アジアのイエズス会士」の中核をなしている。一八三五年の火災によってマカオに遺っていた原本の方は焼失してしまったとされる。

イエズス会年報は、布教地の情報を纏めて年次報告書としてローマの本部に送付したものである。年報は通常ポルトガル語で執筆されているが、ヨーロッパでラテン語やイタリア語等に翻訳され、出版されたものも少なくない。年報は凡てが翻訳、印刷されたわけではないと言え、その執筆時から出版することが想定されていた。従って、イエズス会によるイエズス会文書編纂と出版の歴史は、近年に始まったことではないと言える。布教地からヨーロッパに届けられた書翰や報告書のいくつかは出版されているが、そうしたものは布教成果を宣伝することによる教化を意図していた。それ故、内容には取捨選択がなされている。年報は早期から執筆されているが、日本年報の執筆が制度化されるのは一五七九年からである。年報が制度化されると、個人書翰の送付が制限されるので、年報制度の確立はイエズス会の通信制度の変革を伴っている。

現在、イエズス会が所蔵する文書の編纂は、イエズス会歴史研究所によって進められている。イエズス会歴史研究所は、イエズス会の歴史を専門とする研究および出版センターである。同研究所の研究員であるフェリス・スピリヤガ神父とウォルター・ハニスキー神父は、その沿革と初期の出版物一〇〇冊の概要を紹介している。<sup>(7)</sup>一八〇四年以降、マドリードにおいてイエズス会の創設者であるイグナシオ・デ・ロヨラの書翰を出版することを意図した数名の聖職者グループに端を発している。この時点では、イエズス会はローマ教皇から解散を命ぜられており、一般には存在しないことになっている。この出版計画は、一八八九年まで継続しており、当時のイエズス会総長ルイス・マルティン神父は、文筆家協会 Colegio de Escritores を設立して、『イエズス会記録』 Monumenta Historica Societatis Iesu の出版を指揮した。一九一一年には、出版計

画の拡大が計られた。一九三〇年、総長ウラジミール・レドコフスキー神父は、同機関をマドリードからローマに移転させて、翌年にはイエズス会歴史研究所を組織した。第二時世界大戦後、イエズス会が所蔵文書を疎開地からローマの本部内に設置されている文書館に移管したことを受けて、同研究所は一時期中断していたイエズス会文書の編纂作業を開始した。

かつてのカトリック教会が編纂・出版した布教文書集は教化を目的としていたので、その趣旨に沿わない内容は削除される傾向にあったと言われる。しかし、イエズス会歴史研究所で編纂されている史料集は、こうした特定の目的のために史料の取捨選択がなされたような偏った内容の史料集ではない。それらは、主としてイエズス会が所蔵する原文書を校訂した良質なものであり、歴史研究者が研究を進めていく際の基礎となるものであると言えよう。

同研究所は一九三一年にローマにおいて設立されているが、マドリードにおける出版事業の期間を含めると、既に一世紀以上に亘る出版活動が続けていることになる。スタッフは、全員がイエズス会の司祭である。一九八六年の時点では、研究所内の専任研究員が二八名、研究所外の兼任研究員が一二名であった。<sup>(8)</sup>しかし、近年の組織改編によって、二〇〇一年一二月の時点では、所長のマーク・ルイス神父を始めとする五名に専任研究員は限られており、他は世界各地にあるイエズス会系の大学等で働くイエズス会士が同研究所員を兼任する体制へと移行している。

同研究所はローマのイエズス会本部の敷地内に設置されており、独立した研究機関とされている。同研究所では、同会の歴史に関する史料集の編纂と出版を主として行なっている。研究紀要を除いても、同研究所の既刊の出版物は二五〇冊を越える数になる。同研究所の初期の活動については、ラマール神父が簡略に紹介している。<sup>(9)</sup>同研究所では、研究紀

要『アルキウム・イストリクム・ソキエタティス・イエス（イエズス会歴史文庫）』Archivum Historicum Societatis Iesuを一九三二年以降刊行しており、各巻末には同研究所の年度毎の活動内容が簡略に紹介されている。同研究紀要は、仏、英、伊、西、ポ、独、ラテンの各言語で執筆されている。一八九四年から一九二四年までの期間マドリッドにおいて計六二巻が出版されていた『イエズス会歴史記録』Monumenta Historica Societatis Iesuが同研究所のローマ移管に伴ってイエズス会の研究紀要になったものである。

同研究所の活動内容は、基本的には以下の四種類に大別することができる。<sup>10)</sup>

①『イエズス会歴史記録』Monumenta Historica Societatis Iesu (MHSI) は、同研究所の中核をなす編纂事業である。一八九四年に第一冊が出版されてから、既に一五〇冊以上が出版されている。『イエズス会歴史記録』は、『創設記録』Monumenta Originiumと『布教記録』Monumenta Missionumに分類される。『創設記録』は、イエズス会の創設に関する史料と創設期における会員の著作を編纂した史料集である。同会の初代総長イグナシオ・デ・ロヨラの書翰と著作が主なものであり、『イエズス会憲』と『規則』等も含まれる。『布教記録』は、世界的規模で展開した同会の布教活動についての史料を地域ごと分類して編纂した史料集である。

②『イエズス会歴史研究所文庫』Bibliotheca Institutii Historici Societatis Iesu (BHSI) は、イエズス会士の活動とその歴史的作用についての個別研究のシリーズである。一九四一年の創刊以降、五〇冊以上が出版されている。『イエズス会史料』とは異なり、著者には同研究所外のイエズス会士が少なくない。

③『イエズス会の歴史への手引き書』Subsida ad Historiam Societatis

Iesuは、書誌を始めとするイエズス会の歴史を研究するための手引き書である。ラザロ・ボルガ神父の『イエズス会史書誌』<sup>11)</sup>を始めとする工書がこの範疇に含まれる。

④アメリカ部門 American Division は、新大陸に関する史料の研究と編纂を専門に行なう部門である。当初の事業計画を終えたことよって、現在は活動していない。しかし、アメリカ部門の事業内容は、シカゴにあるロヨラ大学歴史研究所によって実質的に継承されている。同研究所の沿革と活動内容については、ウォルター・クロリコフスキー神父が紹介している。<sup>12)</sup>

同研究所は、この他にも世界各地のイエズス会系大学の研究・出版プロジェクトの後援等を行なっている。こうしたものには、時限のプロジェクトも含まれている。研究所の専任研究員の人数を限定して研究所外に兼任の研究者を増やす体制へと移行させていることは、この傾向を促進させるものと考えられる。

日本関係の史料集は、『布教記録』の範疇に含まれる。日本関係史料編纂の基礎になっているのは、ローマ・イエズス会文書館が所蔵する日本・中国部 *East Asia* 文書である。一九七〇年代に同文書館は、一般の研究者に対して所蔵史料の公開を開始した。その後、同文書館の委託によって、同文書館が所蔵する日本・中国部の内から日本関係史料のマイクロフィルムを上智大学キリシタン文庫が架蔵することになった。<sup>13)</sup> 同文書群については、尾原悟神父が詳細な目録を出版している。<sup>14)</sup> 同目録に示されている日本関係文書は六〇冊余りであり、約一八、〇〇〇葉に達すると言われる。いわゆる鎖国以降、イエズス会日本管区は東南アジア半島部の布教を担当することになる。そのため、日本・中国部の文書には日本管区の二五冊のヴェトナム関係文書が含まれる。その他に中国管区の一〇〇冊前後に及ぶ文書があり、中国において木版で出版された教理

書を始めとする漢籍も含まれている。

イエズス会歴史研究所において日本関係史料の編纂を担当していたヨゼフ・シュツテ神父は、南欧の公立図書・文書館が所蔵するイエズス会関係文書を調査し、詳細な目録を数多く作成しているが、その他にも浩瀚なイエズス会日本カタログをイエズス会歴史研究所から出版している。<sup>(15)</sup>シュツテ神父の後任であるホアン・ルイズ・デ・メディナ神父は、初期の書翰や報告書を中心とする日本布教史料集二冊を出版している。<sup>(16)</sup>この他に、日本における殉教録も出版している。<sup>(17)</sup>現在では、アントニ・ウセル神父(上智大学比較文化学部)と川村信三神父(同大学神学部)がルイズ・デ・メディナ神父の後任の兼任研究員として日本関係史料の編纂を担当している。

一六世紀には、日本はイエズス会の布教管区ではインド管区に含まれていたこともあり、インド関係史料は日本とは密接な繋がりを持つている。インド関係史料は、ヨゼフ・ヴィツキ神父が一六冊を出版し、<sup>(18)</sup>ヴィツキ神父の業務を受け継いだジョン・ゴメス神父がヴィツキ神父との共同の形で二冊を出版した。<sup>(19)</sup>インド管区に属するモルッカ関係史料が別個に出版されている。<sup>(20)</sup>また、ゲオルク・シユルハンマー神父とヴィツキ神父の共編である『聖フランシスコ・ザビエル書翰集』のような史料集も出版されており、アレックスサンドロ・ヴァリニャーノの著作には単独で翻刻・出版されたものもある。<sup>(21)</sup><sup>(22)</sup>

イエズス会歴史研究所は編纂と出版を基幹業務としている『イエズス会歴史研究所文庫』の出版に見られるように研究員個人の研究も行なわれているが、基本的に編纂を重視する体制が採られている。研究員の研究に対しては、研究紀要という形で発表の場が設けられている。イエズス会歴史研究所が編纂対象とする時代は同会の創設以降なので、一六世紀以前の史料は当然のことながら編纂の対象外となる。

### 三 史料編纂所におけるイエズス会史料の編纂

東京大学史料編纂所におけるキリシタン関係史料の編纂は、『大日本史料』欧文材料の蒐集と編纂に始まる。その起源は、『大日本史料』の出版が開始された約一世紀前に遡ることになる。日本史の研究全般に該当することではあるが、キリシタン史の研究もまた史料の蒐集と編纂に依拠するところが大きく、未刊の新史料の発見によって研究が進展してきたという経緯がある。

東京帝国大学史料編纂所史料編纂官であった村上直次郎氏は、明治時代の末にヨーロッパ諸国を歴訪し、日本関係の欧文史料の蒐集に努めた。その際、ポルトガル、スペイン、イタリアにも赴き、日本ではそれまで知られていなかった未刊の文書を含む数多くの日本関係史料を発掘している。南欧関係では、イエズス会関係史料に限定したものではない。その成果は、『大日本史料』第十二編の慶長遣欧使節関係史料の編纂に現れている。<sup>(23)</sup>『大日本史料』には、その後も欧文史料の収録が続けられており、天正遣欧使節関係史料のように欧文史料が別巻として編纂・出版されたものもある。<sup>(24)</sup>

村上氏は、史料編纂所における史料編纂の他にも、一五九八年にポルトガルのエヴォラで出版された『エヴォラ版 日本書翰集』(全二巻)<sup>(25)</sup>を翻訳し、イエズス会日本関係史料の存在を世に知らしめた。これは同書の全訳でないといえ大変な偉業であり、後の研究に大きな影響を与えた点で史学史上は重要な位置を占めるものである。しかし、今日の研究水準から見れば、翻訳に著しい意識や省略があるうえ、底本とした『エヴォラ版 日本書翰集』自体の校訂がなされていない点で、不十分であると言わざるを得ない。近年、『エヴォラ版 日本書翰集』を始めとする著名な刊本の新たな優れた邦訳が出版されたが、写本類との校訂

作業がなされていない憾みがある。こうした問題を補うためには、厳密な校訂を経た史料集の出版が必要となる。

当時、カトリック教会外の一般の研究者が調査可能であったイエズス会史料は、南欧各地の公立図書館や文書館が所蔵する刊本や写本が主なものであった。教会、特に修道会関係の文書館は、現在では所蔵文書の整理が進み、協会外の一般の研究者の閲覧に応じるところが少なくないが、かつては文書の整理が進んでいなかったり、閲覧に対応する人手が不足していたりするなどの事情があつて、一般の研究者には開かれていなかった。そうした状況にあつて、岡本良知氏は、ポルトガルの公立図書館・文書館に散在する写本を中心とする文書類を綿密に調査している。<sup>(27)</sup> チャールズ・ボクスー氏も、刊本だけでなく閲覧可能な文書類をも利用して研究を進めている。<sup>(28)</sup> これらの研究は、『エヴォラ版 日本書翰集』を中心とする研究から一段と深化したものであると言えよう。

一九五四年以後、史料編纂所は日本学士院の委託を受けて海外にある未刊の文書を中心とした日本関係史料の調査と蒐集を開始した。岡本良知氏は、日本学士院が蒐集したキリシタン史料を一点毎に解説している。<sup>(29)</sup> 大類伸氏は、こうした史料の性格を概説的に記述している。<sup>(30)</sup> 史料編纂所では、一九六四年以降、蒐集史料の目録一五冊を出版している。<sup>(31)</sup> その内の第一四冊までに収録されたものを第一次蒐集分と位置づけて、それ以降の第二次蒐集分と便宜的に区別している。この事業自体は今日でも継続しており、『日本関係海外史料』を始め史料編纂所の出版に必要なとされるものから優先的にマイクロフィルムを蒐集している。マイクロフィルムによる史料蒐集は、一九七四年から出版が開始された『日本関係海外史料』の編纂はマイクロフィルムで蒐集した史料を翻刻する形式が主として採られている。『日本関係海外史料』に収録されている『オランダ商館長日記』、『イギリス商館長日記』、『イエズス会日本書翰集』

は、いずれもマイクロフィルムによる史料蒐集を編纂の基礎としている。史料編纂所の海外史料の蒐集については、沼田次郎氏<sup>(32)</sup>、金井圓氏<sup>(33)</sup>、石上英一氏<sup>(34)</sup>がその概略を纏めている。

以下、史料編纂所が編纂・出版している『イエズス会書翰集』について、編纂の概略と基本的方法を紹介したい。<sup>(35)</sup> 同書は、イエズス会の宣教師が認めた日本についての書翰や報告書を編年で収録した原文編と、その日本語訳である訳文編からなる。日本にいたイエズス会宣教師がイエズス会の本部があるローマに送った書翰が中心となっているが、東南アジアやインドで記された日本の情報を含んだ書翰もある。僅かな数ではあるが、ローマから日本に向けて送られた書翰と訓令も含まれる。その他に、イエズス会以外の修道会の修道士、ポルトガル人船長、商人等が主にヨーロッパの本国に向けて送付した書翰や、ポルトガル国王が布教地に送付した書翰を収録している。

収録する対象となる書翰は、一五四七年から一五七九年までに執筆されたものであり、全部で約四五〇点が予定されている。言語は、ポルトガル語で記された書翰が最も多く、全体の約七割を占める。次いで、スペイン語のものが二割弱、イタリア語のものが約一割となる。ラテン語の書翰は数点あるが、割合から言えば全体の僅か一パーセント程度に過ぎない。ラテン語の書翰は、原文がラテン語で認められた場合と、ラテン語の刊本にしか残存していない場合がある。ポルトガル語を中心とする書翰の言語については、五野井隆史氏の論文を参照されたい。<sup>(37)</sup> 収録する書翰の下限を一五七九年としたのは、同年に来日したイエズス会の東インド巡察師アレックスサンドロ・ヴァリニャーノがイエズス会の年次報告書である「年報」を制度化したことによって、それ以降は年報や報告書が中心となるからである。つまり、個人書翰のヨーロッパへの送付が著しく制限されてしまうことによって、イエズス会の史料の性格が一変し

たのである。

イエズス会宣教師の書翰はヨーロッパ各地にある国公立の図書館や文書館にいわば散在しているが、それらは概ね写本である。原文書の多くは、ローマ・イエズス会文書館が所蔵している。<sup>(38)</sup> イエズス会では、こうした文書を布教開始の直後である一六世紀後半から既に書翰集の形で出版している。ポルトガル語やスペイン語の主なものとしては、一五七〇年にコインブラで出版された『コインブラ版 日本書翰集』<sup>(39)</sup>、一五七五年にアルカラで出版された『アルカラ版 日本書翰集』<sup>(40)</sup>、一五九八年にポルトガルのエヴォラで出版された『エヴォラ版 日本書翰集』<sup>(41)</sup>がある。更に、一五五五年にコインブラで出版されたスペイン語の『数通の書翰の写し』<sup>(42)</sup>と呼ばれる収録書翰数が九点のものがある。これは、同時代の初期刊本のひとつである。この他に単独の書翰でも出版されたものがある。これらの刊行された書翰集は、凡ての書翰を網羅してはいない上に、布教に直接関係のないものや、イエズス会にとって好ましくないと判断されたものは、削除される傾向がある。従って、刊本を校訂することなく用いた研究では十分とは言えないことになる。

イエズス会は同会に関する膨大な文書を所蔵しているが、日本関係文書についても、ローマ・イエズス会文書館が最も良質な文書群を所蔵している。その他には、スペインのアルカラ・デ・エナレス（マドリド市）にあるイエズス会トレド管区文書館所蔵文書がある。イエズス会歴史研究所が出版した『日本のカタログ』と『日本文書集』には、こうした同会の所蔵文書が多数収録されている。

史料編纂所におけるイエズス会史料の編纂は、イエズス会歴史研究所における編纂とは異なった形態を採用している。現時点では、原文編の編纂は、古刊本に当該文書が収録されている場合にはそれを底本にして複数の写本で校訂する方法を採っている。校訂に使用する写本は、アジ

ユダ図書館所蔵の写本集「アジアのイエズス会士」における「インド書翰集」<sup>(43)</sup>、ポルトガル科学学士院図書館所蔵の「日本書翰集」<sup>(44)</sup>、ポルトガル共和国外務省文書館所蔵の「日本書翰集」<sup>(45)</sup>、ポルトガル国立図書館所蔵の「インド書翰集」<sup>(46)</sup>等である。これらの写本は、原文書、乃至その写本から作成されたものである。前述の通り、アジユダ図書館所蔵の写本集「アジアのイエズス会士」は一八世紀中葉に作成されているが、同写本集中の「インド書翰集」(全一冊)は例外的に一六世紀に作成された写本である。<sup>(47)</sup>

アジユダ図書館所蔵の写本集「アジアのイエズス会士」が作成された後にマカオに残存していた文書から再び写本が作成されている。これらは、マニラに運搬された後にスペイン官憲によって押収され、新大陸経由でスペインに送られた。現在、それらの一部がスペイン国立歴史文書館、スペイン国立図書館、スペイン王立歴史学士院図書館に分蔵されていることが知られている。この沿革と各文書群の関係については、ヨゼフ・シュツテ神父の研究に詳らかである。<sup>(48)</sup> また、柳田利夫氏は、アジユダ図書館、スペイン王立歴史学士院図書館、スペイン国立歴史文書館の所蔵史料の内、イエズス会総長の日本向け服務規定の諸写本を校合しているのが、相互の関係を示す具体例として理解の助けとなるであろう。<sup>(49)</sup> スペイン国立歴史文書館所蔵のイエズス会士部の日本・中国関係文書には比較的初期の日本関係史料が含まれており、原文書乃至原文書に近い関係にある写本であると推測される。<sup>(50)</sup> 史料編纂所の『イエズス会日本書翰集』では、『エヴォラ版 日本書翰集』に未収録の書翰については、これらの諸写本から引用することを基本方針としている。

古刊本について若干の補足をしておきたい。『コインブラ版 日本書翰集』は一五六六年までの書翰しか収録されておらず、収録点数は全部で八二通である。『アルカラ版 日本書翰集』は一五七一年までの書翰

を収録しているが、『コインブラ版 日本書翰集』と比較して収録点数がそれ程多くはないうえに、主としてポルトガル語の原文書をスペイン語に翻訳したものである。『エヴォラ版 日本書翰集』は書名では一五八〇年までの書翰が収録されていることになっているが、第二巻には出版直前までの書翰や年報が収録されている。他言語への翻訳書翰集ではないうえに、収録点数もコインブラ版やアルカラ版よりも多い。因みに、『エヴォラ版 日本書翰集』の収録点数は、二巻を合わせると二〇九通になり、対象時期のものだけでも一六六通になる。

以上の写本や刊本には、原文書から転写された際に、部分的省略や全体の要約がなされていることが少なくない。さらに、他言語に翻訳された書翰もある。しかし、こうした校訂を経て初めて、諸写本と諸刊本との関係が理解できるのである。『イエズス会日本書翰集』の編纂作業を通じて、諸写本と諸刊本との関係が明らかになり、イエズス会士が布教地で執筆した書翰が布教成果を示す刊本として如何に利用されたのかということが具体的に浮かび上がるであろう。

#### 四 むすび

イエズス会歴史研究所によるイエズス会史料の編纂は、ローマ・イエズス会文書館の膨大な所蔵史料が整理されたことよって可能となったものである。スペイン系の托鉢修道会でも所蔵史料の編纂は行なわれているが、概ね個人研究の規模に留まるものであり、同研究所のように史料編纂を設立の目的とした研究機関は托鉢修道会には見られない。托鉢修道会では、研究紀要に史料翻刻が掲載されるに過ぎず、史料の編纂よりは修道会附属の図書館・文書館の機能整備に重点が置かれる傾向がある。このことは、南欧の図書館・文書館のあり方から論じられるべき問題であろうと思われる。

イエズス会歴史研究所と史料編纂所は、イエズス会日本関係史料の編纂と出版によって接点を持つこととなった。イエズス会歴史研究所の『日本文書集』には書翰を校訂し、註を付した原文のみが収録されているが、史料編纂所の『イエズス会日本書翰集』には原文編と訳文編が各々出版されているので、収録書翰の内容を訳文から原文へと容易に遡及することができる。現在、両機関は協力関係にあり、今後の共同研究の可能性を模索しているところである。

#### 〔註〕

- (1) Archivum Romanum Societatis Iesu (ARSI), Borgo S. Spirito 4, 00195-Roma, Italia.
- (2) Institutum Historicum Societatis Iesu (IHSI), Via dei Penitenti 20, 00193-Roma, Italia. (<http://space.inis.scuola/mmorales/ihs.htm>) 一九九六年までは同研究所の出版目録が作成されていたが、現在では出版物の一覧はウェブサイトに掲載されている。
- (3) Edmond Lamalle, S. J., "L'archivio di un grande Ordine religioso. L'Archivio Generale della Compagnia di Gesù," *Archivum Ecclesiae*, Anni XXIV-XXV-1, 1981-82.
- (4) 高瀬弘一郎「キリシタン関係文書」『日本古文書学講座 第六巻 近世編I』(雄山閣、一九七九年)所収。
- (5) 中井充訳『イエズス会会憲』(イエズス会日本管区、一九九〇年)二一〇・二一一頁。
- (6) Biblioteca da Ajuda, *Jesuítas na Ásia*. 同写本集については、拙稿「ポルトガル共和国リスボン市所在アジュダ図書館所蔵の写本集」『アジアのイエズス会士』について(松井洋子編『一六〇一―一八世紀日本関係欧文史料の目録化及びデータベース化の研究』(科研報告書、二〇〇一年)所収)に詳しい。日本関係史料については、次の目録がある。José Maria Braga, ed., *Jesuítas na Ásia*, Macau, 1998.



- (7) Félix Zubillaga, S. I., & Walter Hanisch, S. I., ed., *Guía Manual de los Documentos Históricos de la Compañía de Jesús de los Cien Primeros Volúmenes, que tartan de los Orígenes de la Compañía, de San Ignacio, sus Compañeros y Colaboradores, Legislación, Pedagogía, y Misiones de Asia y América*, Roma, 1971.
- (8) *Publications Institut Historique de la Compagnie de Jésus: Jesuit Historical Institute, Roma, 1986, p. 32.*
- (9) Edmond Lamalles, S. J., *L'Activité de l'Institut Historique S. I. Archivum Historicum Societatis Iesu*, Anno VII-Fasc. I, 1938.
- (10) *Publications, 1986, pp. 4-5.*
- (11) Lazalo Polgar, S. J., *Bibliographie sur l'histoire de la Compagnie de Jésus 1901-1980*, 6 vols. Roma, 1981-1990.
- (12) Walter Krolkowski, S. J., "The Institute of Jesuit History at Loyola University in Chicago", *Archivum Historicum Societatis Iesu*, Anno LXIII, Fasc. 125, Jan-Jun, 1994.
- (13) 尾原悟「イエズス会日本関係文書について」(『上智史学』第二二号、一九七七年)一〇八頁。
- (14) 尾原悟編『キリシタン文庫——イエズス会日本関係文書——』(南窓社、一九八一年)
- (15) Josephus F. Schütte, S. J., *Monumenta Historica Japoniae I, Textus Catalogoriam Japoniae 1558-1654*, Romae, 1975.
- (16) Juan Ruiz-de-Medina, S. J., *Documentos del Japón 1547-1557*, Roma, 1990.
- , *Documentos del Japón 1558-1562*, Roma, 1995.
- (17) Juan Ruiz-de-Medina, S. J., *El Martirologio del Japón 1558-1873*, Roma, 1999.
- (18) Joseph Wicki, S. J., *Documenta Indica*, 15 vols., Romae, 1948-79.
- (19) Joseph Wicki, S. J. & John Gomes, S. J., ed. *Documenta Indica*, 16-18 vols., Romae, 1981-88.
- (20) Hubert Jacobs, S. J., *Documenta Malaccensis*, 3 vols., Roma, 1974-84.
- , *Jesuit Macassar Documents 1625-1632*, Roma, 1988.
- (21) Georg Schurhammer, S. J. & Joseph Wicki, S. J., ed., *Epistulae S. Francisci Xavierii ahaque eius scripta*, 2 vols. Romae, 1944-45.
- (22) Josef Wicki, S. I., ed., Alessandro Valignano, S. I., *Historia del Principio y Progreso de la Compañía de Jesús en las Indias Orientales (1542-64)*, Roma, 1944.
- (23) 東京大学史料編纂所編纂『大日本史料』第十二編之十二(一九〇九年)
- (24) 東京大学史料編纂所編纂『大日本史料』第十一編別卷之一・二「天正遣使節関係史料 一・二」(一九六四・六六年)
- (25) 村上直次郎訳『耶穌会士日本通信—京畿篇—(異国叢書)』全二卷(駿南社、一九一三年、雄松堂、一九六六年)、『耶穌会士日本通信—豊後篇—(異国叢書)』全二卷(帝國教育出版会、一九三六年)、『改訂版「イエズス会士日本通信(新異国叢書)』全二卷(雄松堂書店、一九六八・六九年)、『耶穌会の日本年報』全二卷(拓文堂、一九四三・四四年)、『改訂版「イエズス会士日本年報』全二卷(雄松堂書店、一九六八・六九年)
- (26) 松田毅一監訳『十六・七世紀イエズス会日本報告集』全一五卷(同朋社、一九八七・九八年)。同書には、『エヴォラ版 日本書翰集』には見られない日本年報が他の刊本から引用、収録されている。
- (27) 岡本良知『ポルトガルを訪ねる』(日葡協会、一九三〇年)
- (28) C. R. Boxer, *The Christian Century in Japan*, London, 1951.
- (29) 岡本良知『日本学術会議文庫蔵キリシタン文書解説』(『キリシタン研究』第五輯、一九五九年)
- (30) 大類伸『キリシタン運動の時代——日本学士院所蔵キリシタン史料について——』(私家版、一九八五年)。同書は、大類氏が『日本学士院紀要』に発表した諸論文を氏の没後に増補・出版したものである。
- (31) 東京大学史料編纂所編纂『日本関係海外史料目録』全一五冊(第一巻から第一四巻まで：一九六三・一九六九年、第一五巻：一九八八年)
- (32) 沼田次郎『在外日本関係史料蒐集事業の沿革について』(『日本歴史』第一八六号、一九六三年)
- (33) 金井圓『日本関係海外史料の採訪事業について』(『東方学』第七七巻

一九八九年)

- (34) 石上英一「東京大学史料編纂所における外国史料の収集事業」(二〇〇〇年七月七日開催の大韓民国・國史編纂委員会主催シンポジウム『海外所在韓国史資料の現況と蒐集・移転方法』〔原題はハングル表記〕講演記録に韓国語訳を付して収録。)

- (35) 東京大学史料編纂所編纂『日本関係海外史料 イエズス会日本書翰集』(一九九〇年)。現在、原文編二冊と訳文編四冊が出版されている。尚、出版年度の『東京大学史料編纂所報』には、編纂の担当者名と概要が記されることになっている。

- (36) 東京大学史料編纂所編纂『日本関係海外史料 イエズス会日本書翰集』には、前者の例としては本文中にラテン語で認められたことが明示されている第九六号文書がある(同書、原文編之二、一九九六年、二九二頁、訳文編之二(下)、二〇〇〇年、一五六・一五七頁)。後者の例としてはトルセリーニ編のザベル書翰集(Horatio Tursellino, S. J., ed., *Francisci Xaverii Epistolarum, Romae, 1596*)に収録された第三一七・二二二文書等がある。

- (37) 五野井隆史『イエズス会日本書翰集』とポルトガル語文書翰について』(『東京大学史料編纂所研究紀要』第二号、一九九一年)

- (38) ローマ・イエズス会文書館の所蔵文書等を翻訳したものに、高瀬弘一郎訳・注『イエズス会と日本』全二巻(岩波書店、一九八一・八八年)がある。尚、同書第二巻は岸野久氏との共訳である。

- (39) *Cartas que os Padres e Irmãos da Companhia de Jesus, que andão nos Reinos de Iapão escreverão aos da mesma Companhia da Índia, o Europa, des do anno de 1549 ate o de 66*, Coimbra, 1570.

- (40) *Cartas que los Padres y Hermanos de la Compañia de Jesus, que andan en los Reinos de Japon escriuieron a los de la misma Compañia, desde el año de mil y quinientos y quatroenta y nueve, hasta el de mil y quinientos y setenta y uno*, Alcalá, 1575.

- (41) *Cartas que os Padres e Irmãos da Companhia de Jesus escreverão dos Reinos de Japao & China aos da mesma Companhia da India &*

*Europa, desde anno de 1549 ate o de 1580*, 2 vols., Evora, 1598.

- (42) *Copia de umas cartas del padre mestre Francisco, y del padre mestre Gaspar y otros padres de la Compañia de Jesus, que escriuieron de la India a los hermanos del Colegio de Jesus de Coimbra, Tyselados de Portugues en Castellano*, Coimbra, 1555.

- (43) *Biblioteca da Ajuda, Jesuitas na Ásia*, 49-IV-49 & 50, Cartas da Índia.

- (44) *Biblioteca da Academia das Ciências*, Cartas do Japão.

- (45) *Arquivo do Ministério dos Negócios Estrangeiros de Portugal*, Cartas do Japão.

- (46) *Biblioteca Nacional de Portugal*, F. G. 4532 & 4534, Cartas da Índia.

- (47) *António da Silva Rego, Jesuitas na Ásia. Inventário e Índices*, Lisboa, 1980, p. 110.

- (48) Josef Franz Schütte, S. J., *El <Archivo del Japon>; Vicisitudes del Archivo Jesuítico del Extremo Oriente y Descripción del Fondo Existente en la Real Academia de la Historia de Madrid*, Madrid, 1964.

- (49) 柳田利夫「イエズス会歴代総会長の日本向け服務規定の諸写本について」(『古文書研究』第二四号、一九八五年)

- (50) *Archivo Histórico Nacional*, Clero Jesuitas, Legajo 270 & 271.

〔附記〕 本稿作成に当たり、アントニ・ウセレル神父よりイエズス会歴史研究所について御教示を賜った。銘記して謝意を表したい。